

福島のおゆき国会日誌

<経済産業委員会・農林水産委員会連合審査会で質疑 ALPS 処理水の処分>

8日、閉会中審査として行われた経済産業委員会・農林水産委員会連合審査会で、質疑に立ちました。議題は「福島第一原発からのALPS処理水放出について」です。

これまで国会に戻って以降、この問題については何度も東日本大震災復興特別委員会で議論を行ってまいりました。関係者からも何度もお話を伺ってまいりました。

実は茨城県は、海面漁業漁獲高は全国2位であり、隠れた水産大県なのです。茨城県民も、このことはあまり知りません。

誰も喜んでALPS処理水の放出のようなことをしたいわけではなく、みんなの苦渋の判断の末の実行です。幸い、今のところ地元では大きな風評被害は受けておらず、大部分の日本人の皆さんには冷静に対応していただいています。度を越した常軌を逸した中国の対応については、質問を用意していただいていたのですがわずかに10分の与えられた時間では、たどり着きませんでした。

私からは、応急止血策のような今起きている被害に対応するだけの補償策ではなく、中長期的な視野に基づく構造的な水産業振興政策が必要であることの1点を訴えました。野村哲郎農林水産大臣はこれまで何度も失言を繰り返していますが、今回の答弁も冴えないものでした。今週にも組閣が予定されている中で、ヤル気もないのかもしれませんが、このような気の抜けた時期に、このような重要な問題の審議を、総理も出席しないで行うことこそ、国会の緩みであり、国民の期待に応え得る国会になっていない証左だと思います。質疑の様子はこちらから⇒



<有志の会研修会 地元開催>

有志の会の合宿研修会を、9月5日から2泊3日で私の地元で行いました。

まずは鹿島神宮に参拝して、これから大きく動くであろう政局の前に「鹿島立ち」からスタートしました。大洗の原子力研究開発機構を訪れ、今後のさまざまな原子力技術の可能性について視察し、中高大の先輩でもある大島宏之理事と意見交換いたしました。

座学は、新しくオープンした水戸市民会館の会議室で行いました。中国に6年間拘束されていた地元出身の鈴木英司さんからは、中国の事情と今後の展望についてご講演いただきました。いつも対談させていただいている安富歩東京大学教授からは、論語の政治思想について。田中角栄秘書だった朝賀昭先生からは、政治家とは何かについて、それぞれ本質的な話をいただきました。

この場所で合宿を行ったのは、当地の歴史的な役割を知ることも目的としています。水戸市内の歴史的な史跡を回り、宿泊した宿のそばにある大洗の護国寺にも参りました。

<STOP! インボイス 財務省に中止・延期の申し入れ>

4日、インボイス問題検討・超党派議員連盟の副会長として、財務省に対してインボイス制度の中止・延期を求める申し入れを行いました。この夏も各地でインボイス制度導入で困惑する声をお伺いいたしました。そもそも、インボイス制度の問題はこれまであまり多くマスコミに報道されておらず、ようやくいくつかの報道で問題点を知った人が出始めているのです。財務大臣への申し入れを求めたにもかかわらず、対応に出てきたのは政務官。メディアを入れることも認めません。財務省は相変わらず「寄らしむべからず、知らしむべからず」。一体何様なんですか。

